佛說天爾波抄

へ 5
4422
1

北邊大人口授
浦井有國筆受

佛說天爾波抄

岐阜 玉之堂

昭和九年九月二九日 購求

へ5
4422
1-6

佛說天爾波抄序

晃圓

夫聲者皆其物形理之所相摩而生者也形理之所相摩故又有物与生焉聲物是也民之言語者物感于心而意萌焉意所結者

亦物也是以傍聲物之所
類以貌其意是其言語之
所由發也古之言語其用
聲物精與其意象適矣是
以其言簡而旨深矣今之
言語不論適否而逐俗習
其聲之所用率皆不能与
物切也補苴以周之故其
言繁而旨亦淺矣是古今
之別夷夏之所同者也是
故晩世之以其辭倣古者
率亦皆準厚於薄儕賢於

門へ5
4422
巻 1

庸甚者訛白為黒譬猶力
微而運重不取敗於其自
者鮮矣亡弟成章用力於
倭歌思救世之流弊其所
嘗著有挿頭脚結二抄其
子成元纂先緒而益又宣
明其義也以夫俳歌亦出
於倭歌之支流故間嘗廣
其先達之良規而以辨今
副墨之訛習著之為俳諧
天爾波抄亦猶以演乃父
之所志也書成乞予言其

事因為題

文化三年丙寅孟冬既望

皆川愿書

[illegible]

非藷夫爾波抄

凡例

一、人、ことと神道歌道とそれぞれかたたがへ、今世俳諧の三道を兼ぜるなり。有國が大人のいまもとうぶびるるとおもわるるなれども、大人つねに曰、寄ごとみは連歌が諧をいやしとおもふ。寄よりもまさりたるとおもふ。俳諧は寄よりは、寄まさりたるとおもふ。これ大人のつねとおいでも、一家の内にて兄弟ながらも諍ひがごとくいとしてはなはだしかりしなり。たゞ寄ごとは寄をバ二人しるもの也。寄ハまさりたる事を天下にしる也。俳諧ハ寄まさりたる事を、今のうの言をもてるとむにて、をしなべて人々ちゝとしてふしのわろかるんをとゝるべきとおもふ。

この歌さうりょうぬきて三道とも法行の媒とかるより偏因
なる所ども出来て法ひろく人々をもとろかるれとて大人
うのうち色のとき俳諧をもいとまある時いとまいれるもてあそ
ばんめ三つ連句俳諧の書流おのが道に貴りせんとて
五句脇と第三とをもとく別の傳あり先学の事おける
もの いひたる言ばをとくとも公儀やすてんと慈悲する
歎息嘆ざるなかり なにとぞ俳諧のつゆ忘れ
ど世にもなくとうゆゆしくとうれと物語のつゆ忘れる
事ぞかなく法のよ冊なりめる也大人の先考國学のよ
くのと用ひそつひく詞と三具こわりら折てり いとゆる挿頭(カザシ)掛裝
掛脚結掛これが掛なり 脚結(ヒモ)とは世ふ
ものとのかり この神ふなどのゆう
ものとは古今の規範にて他人の目のとまるべきかも也 この御法

掛をかけくとひゆくしついぐて
異因あるこしかとひよ大人のつくく連句ここの御法掛と
てなつつこの用ふあべし 俳諧くかとより俗語かくかる
てくて俗のてくかく用ふるめるべく俳諧とかてこの
歌をとくさべ俳諧家の人の眼とひくこんのくるべこの御法
掛とくしくとくりあるべくとく人が心のかくひかふくと
のかく 即あゆい掛の神主例主三つ三つ神集中の白を
りてくこの歌をとくのまくるくるも今この下もくこのようみて
寄用のくくこんくもあるべくれこの数をのべるくく四海ならべく
兄弟さんこつくこんいとくこくぞや
大人のこのと教つくる 神をとかづめく言霊をひくまれ
る業俗没をくこ事るべく今くこ他職のくくとつづくくこ

これとほくしりる人すくなし。こゝろうけくし蕉翁の句、ゑのび
き門葉の句ごとに、その主意をとけるなり。これ大人が私に
俳諧をもつけてゐるあらぬ説をもて、著述がかれる俳
叢集の序をとりのぞくおそれあり。ぐ。つのくまみるあまりに、そそぐ
なかれとも、何ぞとくこゝろにくかりる物とのこゝろつゝ大人ぶ無と
ゆゝしきこゝろにて、俳諧の主意をだに平生書のあとにたりまちまち
くりこゝろにすゆめ、その序にいふ、幻術の法一ちゝ、その句に魂の入る
ざわぐ、著述をゑみて仙ゝ、べし。中略 さて俳諧に魂のつかしん
ゝ、ゝ、ゝ、我翁の術の法、伊賀編 ゝ、山中にて、俳に小著を出
ゝ、俳諧のまゝ、ひと入れ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、断絶のものと呼び
ん、あゝ、われ、ぐき幻術かゝ、ゝ、ゝ、ゝ、即言霊のるにく。
拙本人麻呂の、言ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

荒野　[illegible]　除月

同　[illegible]　荷兮

猿蓑　[illegible]　羽紅

同　[illegible]　一里

同　五羽[illegible]　元志

同　[illegible]　芭蕉

同　[illegible]　尚白

同　[illegible]　史邦

同　[illegible]　仙化

續猿蓑　[illegible]　馬莧

同　田植[illegible]　重行

同　[illegible]　丈草

同　[illegible]　一瞽

同　梅[illegible]　水鴻

同　[illegible]　乃論

炭俵　年の[illegible]　野坡

[illegible]

この句は、五句目の句、五句目の用切字なり。

例をあくまでもとのせまり、その句のつもりにて、五句目の用切字なり。

あの句をあげくらしを書き、[illegible]

ひくまみくるのてをれもてるべきなり。

[illegible]

びよ。古歌の例、あやめ[illegible]

てをとるべしとよ。[illegible]

[illegible]

[illegible]

うのさらさらんを論ぜられるるとうとうと蕉翁の腸をみるべき者

なるべし

文化三年丙寅夏日　浦井有國　識

目録

五属第一

詠属　や　よ　ふ

疑属　か　を

頼属　ま　や

誂属　よ　ま　ぶ　や

禁属　な　ん　ふ　ね

十九家第二

普家　ず　ふ何そ

乎家　を　こそ

ものを

波家 ぱ
毛家 み
仁家 ひ
止家 ど
志家 し
乃家 の
邉家 へ
良家 ら
能美家 ぬ
陀尓家 だ
余利家 よ

那年家 なん
碁登家 ごと
毛天家 もて
加保家 かほ
那加良家 なから
加天良家 かてら

六倫第三

可倫 べし
不倫 ず
浮倫 ふん

有倫　あり　たり　れ　な

去倫　わ　ま

来倫　き　ら　な

く

十二身第四

氏身　て

之身　し

咩利身　め　り

那利身　な　り

由久身　ゆ　く

阿不身　あ　ふ

也苗身　や　ん

加奴身　か　ぬ

被身　る

令身　す　む

為身　す　ら

如身　ご　ま

八隊第五

義隊　ぎ　さ

久隊　く

介隊　け

加之隊　か　し

奈倍隊　な　べ

毋乃隊　こうの
八多隊　そた
加天隊　かてん

以上

右の詠ぶぶ文成章のあやい掛の詠ぶけてそのの
種姓をそくくく

俳諧天尓波鈔巻之一

北邊大人口授　浦井有國　筆受

○五屬　コノ屬家倫身隊ト五門ニワケタルハ、脚結抄ノ大規模ニシテ、古来人ノ弁ゼザル所也。委ウハ抄ニアリ

○詠屬上

新〻〻世よりて歌思なり。凡詞く歌思うおさ物なるまどもいと更歌思をむねとす

詞ハ六屬〻〻なるべし

や

典ごとくやとうたうく。内のうちあるべし。他はさてやむとすれと

あ〻〻くぞる事をとゝのへ入る。天尓波也。そのあるこゝあるべし

歌恩の詞とくなる也。くるしきもとくれど四例あり。されどたゞ
つゝい方のかゝるのみにあらず。ゐくたづつるかなる也。はるかすめか
ゝもゆくゝ上下れ事ゞのかりるゝ也。けだし詞ハやの字
ゝ、かゞゝる事ゝにあらず。もづくの天の波。これ世心をもてゝ
疑のやハコノ属ニアラズ。別ニ下ニ疑ノ属アルニ出セリ

○第一例　冠のや　上ニ

此例、第二にくゝ「大くらやとゝの山辛」「みちのく
くめのゝ山」「かづらやくゝちろゝ」後撰「こゝ
やゝかの柳山」拾遺　ゝゝかるゝ西剛子
春日　ゝゝかゝやゝ三井の東寺の跡ゝ　旦葉
これも節句「カの筋と繼し中の子野水」この句
とつゞき。三井寺につけるもの也　サヽ、ナミハ其アメリノ地名ナリ。連歌ノ二ハ

アラザルナリ。月本紀ニ證アリ　これわゝくゝ。さるこの地のゆゝ三井寺
とおもきゝく。他の寺ゞ循ぜめよりて。なのしゝるゝ
んなり。三井寺の宮後。やもすれば手ゝとゝるゝ
づゝく。他のもれつゝくゝあれゝくゝなる也。このんどん
くずして。やの字ゝにあらる也。ゆゝくゝかゝのやて。
のゝいふべゝもとゝぐ。やとゝいひ。あや。ゝうゝぐのとゝ
しゝづゝゝ生ゆべきに。やとゝもいふ。ゝひとゝゝゝわゞ。
くゝつゞこれを。ちゝるゝるゝの三井といふけゝ。やゞ。ちるゝ
ゝるゝ三井ちとゝてんゝゝゝ。内の。はゞゝそひ
ゞゝゝゝのゝをゝゝゝ

なりてつゆの用とかはりてつゆ。これ他の物ハ
等閑ニ成ルをとゝ寸揚ル。古人天ハ波をうつし
る。簾暑かゝ〳〵ぬこと。此ひとつにくも四ツ〳〵ゆし

各日　岡崎や矢矧のくれぬきうれ　杜國

前句　志賀の馬乃ねつゝがほかり野水　馬サヘ
コノ橋ノ長キニ退屈シタル心ニ見テ。即人ノ心ヲ活カ
シタル附ザマナリ。コレ猿蓑ノ序ニ。晋子ガ入寛トイヘル
所ノツケヤウナリ。委シクハソノ序ノ注ニイヘリ

猿蓑　文月や六日もいまだ曇なし　芭蕉

ゆふ〳〵ゆゝしき面白ク。地名ヲ
ねど。文月の六日とつゞけ。やとゝ引ハ白クれぐ。四ド
例かりと知ルベシ。○これも物ゝ。やの字のふとゝ。
ゝゝゝつゞけ。ゝ。ゝ。ゝ

白かりけるぞ、いとゆかしき。或ハ、さびしさかどなかるべしなどいふ。
さもさもいふべくは、義乃脚肝をまもるあるべし。元
は、古の字を眼をとるべし。これ新乃字の反にて、古ハ
新なるべし。水草ハ海などせきたるべと魂とす。
うの花などいとくれなゐなる中へ、鮭のこびとむ音ハ、
しらぬ。いつくしくれぬよ。
とび入ぬ。
やがてかるもと、清き　新池のとぶこそ前かるべと歳
歌さしれ。四月。この句を世人かるのもとく客
をるのあるべ。
さびしさ。ひとつの　ひとくんをあ新池かるのと渡り
りさびおされ。薄生みち。ふるび神さびて。何のほとを
訓耳わる古代のごとくあんりしのんりしなげ

○ゆくまくは例よりまくやはり上河ぐ物にて
しもつ所くも「さしも」
さぐく本間　後枕詞「そしもやはらの秋　おちかた」
よる。連俳ともかくこの例ハ。連俳ともこの例ハ。
も歌かもしもしするのこのこの書ハ。
やむこくこそぐる歌よれりこの書ハ。
数かくそいつあるをこのこくこそ。連俳ハ。
字ねするるかぐいつかるこの波よ。
つとこもも。河とこぐ
轉仍を例のごくつ
ず。歌の例こくこぐる書ものこ
もくく誤まり

瓢

疇道やうるうしろ時の角大師　正秀

荒野員外　寄さしづやや晒を買ひて夜をこめて　冬文

同　夜の月やみるうに涙のてりつけく　荷兮

月　遠海や涙ぐましき　蝶羽

猿蓑　木うしやや頬腫るむ人のこと　芭蕉

同　下京や寄うむうく乃ふ所雨　凡兆

同　髪剃や一夜ふさびくる月哀　同

同　月の酒や夢かさく五月雨　芭蕉

炭俵　さらぐるや宝家机乃あり所　杉風

同　竹の子や人の巣ぐきのうしき　嵐雪

同　名月や掘りうまず秀の蠶　去来

同　胡ごやひうく鍬ぬる門乃垣　芭蕉

同　秋ごうぐや力ちびの秋あつく　木白

同　寒菊や形樣のりふ白のうく　芭蕉

同　庶ゝや巨燈ぐんのうちあうら　其角

同　月のうげや ぐうくの上乃親　雀

同　山ぐゝや宇治の焙炉のふ月時　洛頂

同　蛍火や小ふきとぐうれく時の闇　芭蕉

同　紫の子や菖蒲ぬうれて弦をむ　去来

同　かゝ草や あううう　初鳥　史邦

同　うゝあや 絃の手芸の 紋あぐり　其角

同　闇のうや 巣をうぐうてなくゆる　去来

同　振ゝ森やうゝ下庶ゝうりる 古月の雛　芭蕉

同　ゆうさ市乃や 聲今ぐうけの秋乃風　玄来

凡兆

冂　蛍やうやう永氏碑くおぼつかれ　芭蕉
冂　月のかやあるじよ海棠一　市隠
冂　小坂うやかふ（本歟）杉ふりくれて山ざくら　其角
續猿蓑
冂　石ずゑや宝門あけく夢すぎぬ　壮年
冂　栗ゆうや屋ようるさきの秋　露川
冂　さくぶれや蘿こづゝみ素乃畑　芭蕉
冂　菊の香やたにまれる履の音　冂
冂　咎ものや門うかくその月　里圃
冂　ゆくよや稲こく家のうしろ　万乎
冂　雲の峯やかたそむる伊予の海　凡國
冂　金時やこうるこ涙下るの鉢叩　歌草
冂　松茸やしらぬ峯のへたゝりく　芭蕉

冂　墨所なぶ猫の五器　竹戸
炭俵
冂　ひるぐるや雨ふるこゑ花のこゝろ　智月
冂　世中や年貢ばかりの菊の花　里東
冂　しぐるゝや門をたゝく豆腐賣　野坡
冂　蓼や竹のるゝ蓼と花をおく　芭蕉
冂　うの花やくらき杉のたゝびこし　冂
冂　さくぶれや傘とつけるふ人形　其角
冂　月雪や鼎のうりぶすき俵　圃吟
続猿蓑
冂　のこる蚊やとまれ時出る秋の雨　曰友
冂　紫くり出くけ面のいくめぐり　園指
冂　こゞしやせ背中ふうく牛の音　風斤
冂　草の戸や墨さをりとうとす　我峯

円 柳のくもやたく新あがりする菊の香　其角
円 ひしゃくの柄やひく紫くの冬の雲　文方
円 鯖鮓やかなるの味ある竿のさき　雅丸
円 そうやわや犬の走りく爪のあと　小鰐
円 いなまやや（髑髏ノ能ニタル画ノ賛）こうの所ゲすくの穂　芭蕉
円 月うげや海のまきく長廊下　牧志
円 菅の笠やのこうぶ新く秋の風　荷兮
円 星きりや扇とりざすのほそり　下著
円 花の月や潮こうげくき川舟　巣裕
円 そうそうとくき若穂の白比丘尼　蕉川
円 ちちやあ新ゆるかくくぶす　春記
炭俵
円 花ゆりや白やこうとと実あくも　志太

円 麦畑や出あたりくと行末の中　野坡
円 ひさげやや日傾出くゆく鳥の垣　利合
紙衾裏
円 うぐひすや柳のこ鳥の藪のこえ　芭蕉
円 藪蘭や徳まくぶく苔のもと　荊口
円 そろそやまの股ぐ乗花の山　洞木
円 笠屋やたたくひく杜の陰　去来
円 出うくうやあくれまむる素加帳　許六
円 うのくやくくれまくくれ水しぬ　芭蕉
円 世の業や影あれぐ若実　山蜂
円 二月猪やさくく吹こむ朝の寡　子珊
炭俵
ちちくくや中わうくわる天川　嵐雪
円 ちちちぐや笠ぐ追ゆる猪のくく　孤屋

同　名月や誰つくる歌子森の鳩　洒堂

同　さらさらや荻そよぐもの夜の雨　文鼠

うれしさの花のやうなる白ぎくや　まさ白ま
ようく疑ひみえ詠ひ　ゆる白もあるべし　陶世今世
の人は詠疑なぐの例のうやまひ　ひとつ　ひ
ざるべかよ　ぎすぐるとやとうく　詠う疑う自然たも
ぎるべかよ　ぎすぐるとやとうく　詠う疑う自然たも
ぎるべかよ　ぎすぐるとやとうく　詠う疑う自然たも
むり高かりもとりやしもの　詠と疑このこ格上つ青
なるべ下のかるの嶋下こいづべく　上古　かる詠　ぬ
かも疑　ぬしつくしく　ぬしつくしく　ぬしつくしく
このかく古人の白にて詠　も疑　みゆる白　あるべ
猿蓑　やうちわぐ今や紀の白いせの白　伊雄

同　さ物のさびれやの鯉のすき　一嘆

庚俵　木ぐれく蕎麦や待宵　芭蕉

続猿蓑　雨の雨しるや土筆の長短　閑指

同　門松やうゆく師走入あり　里東

猿蓑　かるる人の小神（千子がウセケルナ）　芭蕉

荒野　あけぐのくさのくびや明ぐら　野水

つゆの白ぐさを金波とあくざる人ぐうるぐ詠のやう
しらつべ　ぐうるぐ　ぐうるぐ　ぐうるぐ　ぐうるぐ
なぐ　さらぐのやのけ河をぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　疑のやし
くこの差別とくく白を吐ぐ
○まく物のあるく格ぐ　後この例かるあり　さても時の
なくやさ月孝　八つくさ手や図べ　日上　かぐくり　これ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

句集　[illegible]　芭蕉

炭俵　[illegible]　土芳

俵裏　[illegible]　芭蕉

[illegible]

荒野員外　[illegible]　大原幽哉のむ　許六

荒野　[illegible]　杏雨

[illegible]　[illegible]　荷兮

続俵裏　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　自中や月を退り至巨燈　洞木

[illegible]　みくまくや[illegible]持ひくめ乃蔭水　怒水

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　半残

[illegible]　うゝまくや[illegible]（悼サ年）[illegible]　惟然

[illegible]　ゆふ[illegible]や蝶の居る石の壺（ロウ）　凡雄

炭俵　すぐしさや深海のくのぎくぐべ　去来
春日　まさくさやんさらぐの伊勢参り　荷兮
荒野　ほりうや深雪をかしく花の雲　野人
同　おぐろくやぬくあらく施餓鬼棚　荷兮
同　我等或ぐ宮まさまさまるや今朝の春　貞室
ちりちりもおすぐ例ぞり
○まさまさあげる例ぞりの初ぞりぞやとぞ
ちりもおすぐ例ぞりの初ぞりぞやとぞ
続猿蓑　住つるあ旅のこころや冬日焼　芭蕉
炭俵　梅ぞ又人のぐぞれや春ぐす　文草
荒野　うぐのあ行やどり春梅の花　芭蕉
続猿蓑　梅ぞわる情や梅ぞ小豆粥　文考

炭俵　麻のもむあとやすぐるの駒恒形　素竹
荒野　うぐりすのるくや餅搗ぞ片ぞた　去来
続猿蓑　移ぞくさくや蕨ぐらの小仙花　氷固
同　ぐくぞ決なくや湖ぞのさ潤　文草
同　山ぞのちぐもねや峯の月　宗什
同　目礼ぞあもすぐこや石井上　正秀
同　この世の恋のゆい失や初しぐ祝　野坡
同　嘯の電ぞをぞぞや花ぐぐ　其角
同　さぐるぞ花や飯米五十石　桃首
同　早稲苗ぐぐちぐぐや小百姓　乃孝
同　人ぞぞるまや淺のうち毒　芭蕉
炭俵　年ぞぞの海ぞ片嘯や家の花　孤屋

同　食の時うかあれうるや山さくら　望彼
猿蓑　うゝうのき代なるや水くゝぶす　去来
同　入相のしぐれの中や雲ぐゝぶし　羽紅
続猿蓑　けう猫のうけ出す形や冬の月　丈草
炭俵　さゝれの雫や淀川大和川　桃隣
同　おちつきし魚屋うるや橋ぐり　利牛
同　十四日雪月の古手賣　之道
同　雀ようやすく寄や　衣ごく　雪芝
同　花ずゝきとくゝぐうゝや村まど先　四童
同　目下ても中の羽や主一の時宜　紙屋
続猿蓑　ゆゝしいゆくや廣野の麻の角　沢雄
猿蓑　人のるゝとゝわくゝ陽や橋海苔　扶峯

同　ひぐらしかるゝ中の指るや雑の形　芭蕉
同　禅寺の松の葉葉や神ゝ月　凡兆
同　ちくやてゝ指ゝかゝりのさまらと　紙人
同　そゝゆゝく扇うる比や袋のむ　芭蕉
同　引ゝみゝくゆくや高ゝのてゝこと　去来
同　狼のあとゝみけすや濃ゝどり　史邦
続猿蓑　黒がらの赤のちぢらや わるぢり　土芳
同　うゝ所ゝ月ゝ月ゝ月ゝ　乙州
同　ゝゝうげゝくゝや指のちぢの穴　羽木
炭俵　樽の形ゆゝ表ゆゝ赤ゝや花の中　如枝
同　わゝのゝうるゝや馬の鼻ゝら　利牛
同　唐黍ゝうげゝの形や寒まゝ　西堂

同　苔のうる井もしどの菓や　二三女　子珊

同　鳥のゆく十けぶりやの風の末　徒雖

同　葉ごし雨のゆめぐやー　ちあうい　仙花

○まさ光づしき例かうく

白集　この月　所詠　ちいでー　赤ちゃや　芭蕉

うれるりこれくよてあぐやとてこれるにく。「この月

所詠ちりて　赤花ぐく　ちゃとー　一白と　ちゃにくらけく

この月のかぐるもと　歌自やこれし　平えん上ちゃる特例

のやの一例かりことくとくとくと　義のる際ちりこれちくと

義のこちはと自在ち前ひれ事あちちゃ今世ち人

ちと勵ちぐー

○さくこれくの例ちく。ちのちちあい。その例とさぐるあり。

この例ちくちぐ事なり

荒野　山川や移のくるものをさぐ千しん　蓬梧

見外

同　ものいそやちちくかくちゃんあくこた　舟泉

繞　ちち雨や葉くはくまん雑ちの琴　洒堂

緑蓑

春日　くるのやや　ぐまのちちうれくん　羽紅

これくのちれぐくやくらん　ちん　んんなどちあち時ち

ちちくぐ　かちぐ疑のやの例なり　ちちこれちと修冠

のやれ例ちくやくこれ　ちちこれちくちくこ

ちちぐなりくれぐ連俳ち字数ちちあぐなる

こけく編ちくぐちるまぐくれちと雑ちちぐれ

どくくくこぐ春例なりくれぐくれちと義例ちちと

用ひむちち科ちまぐきくちちぐ例ちちちちれぐ

れなるべくく露例ことのひびきぶ。ことことと
川ぞこ〜ゑ波さわるあとや
炭俵　秋ぞ〜　鴨やあがるき　池のうく　仮く
この白かど。山例どもうくぶかく〜ゆくうぶ疑のやもれ
ど。世俗ぐんく。詠の中のたくせられ白ちやりん。又
荒野　ゆうぐりやゆ秋ぐいろくのつく魚うふ　芭蕉
猿蓑　そ。灌　道灌山ニノあん　やくるるくその世とあしく　凡蘭
荒野　ゆく年や。新。白髪をうくく　朝人
くれくの白。ゆくくけ。ゆくくけうぶまて。雷例ひくく山
き例ぐまぶ。あぶ。蕉ゑ。ゆくくり山き例とあもりく
せくれくまくぶ。一時の変化ぐりやゆ。世の俳諧
古原。この義の白ぐ同とぐぶ。ゆ。ゆのくびく

ぶ〜ゆのうくり。ずぐかく山例ぐ。ゆ。ゆ露ぐくて
ゆ。ぶ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。されども。ゆ。ぐ。俳事傳授。ぐ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ

[illegible]

荒野　[illegible]

文難

[illegible]

[illegible]

[illegible]

状トハ[illegible]ユウシナドニフ[illegible]ノ名ナリ
クハシクハ脚結抄ニ見エタリ

荒野　あしけやけ見車　壽海もの時　海老

同　なつかくるるしるやるの原　旦葉

徐蕉　いそぐやけ沖のこぐれの志帆片帆　玄集

荒野　家ゝゝわの陰くびやけ月のうげ　市柳

同　あづるやけ今ぞ初くきくもゝ等　傘下

同　こ都をぞあとのたうやけ[illegible]　一変

同　輪塔のひくやけ[illegible]　紙人

同　いそぐやけ[illegible]の夜遠星　一笑

同　けつもてをぐやけ[illegible]の月　一泉

同　冷やけ竹のくる方の朝　友蘿

同　聞くゝ市もたけ[illegible]　柳風

同　白芦のくゝるやけ蘇の嵐の浦　嵐蘭

同　ちりくるやけ麻くるあるの秋のそぜ　紙人

続徐蕉　をぐむ乗ゝくゝくゝくゝやけ今の月　山峰

同　侍者の月をゆうやけ定光御　景桃

同　村時むむ日和もかやけ[illegible]雨デ　野荻

同　ゆくすの[illegible]出歳の前後　文州

同　色の雲ゝ[illegible]葉ゝやけ寺の梅　荊口

荒野　のゝくゝやけ[illegible]の衣ゝく　一井

同　やけ陸の畫の姿ゝ　荷弓

春日　瓦ゝく家ゝやけ[illegible]秋の月　野水

友儀　村寺ゝ春徳いやけ[illegible]　荊口

徐蕉　笠あつ川　やけ[illegible]月のき　史邦

同

なにはがたの葦の葉の一ふしごとに　曾良

炭俵

秋ふかく暮ゆくかたの山ぞいに　奇淵

飄

ちるもみぢ川のあなたむかしやとの草　海頂

同

ぬぐひやかたぶくまでの月の雫　荷兮

荒野員外

のどかさやたちやまき沖のうつりかと　曙人

春日

ぬぎすてやかぎりの藤葉の枝伊勢の帯　杜人

統後葉

母方の彼やぬぐひやうす姑　山鶯

同

拭のごとく葉ぬしやの窮所も　万乎

荒野員外

雨すくやちぐさのうちぬぐふ　落梧

炭俵

ぬぐひ所ゆく花のそのかめつ　杉風

ぬぐひのごとく雪所とぬぐふ俗のコトヤノトウ俗

かくしたれば何ぬぐふ　但ハコトヤノトウ俗ヒ

するくらをぬぐふ俗ヒ

ぬぐふなりば例ヒ

荒野員外

ぬぐふ　ぬぐふ　ぬぐふ　川のくさ　昭水

ぬぐふ　ぬぐふ　ぬぐふ　ぬぐふ　ぬぐふ　ぬぐふ　ぬぐふ　ぬぐふ

つりくわてくるれば。きりはの佐こかり。今のどうしたらよい。
きわどかりさこのまくしこめて。金陸し。佐てこそ。ナニヤヤヤ
とうてくうつし。花ヤ紅葉ヤナニヤヤかどつりつるがわどこの
ナニヤヤとこそこと。問へくこてくんぐこるつ。これくこの所に
てくなふやるれば。行こしるこうしみやのれ茶こうかやこよく
つりこうしの。たくこで。はれやのみぢをこるぐこと。こうは。
花と紅葉くこうみく。循つるなやたく。花とこわく紅葉
ひこうこうこうしこれで。もこむこうこかのやこうこやし
こうこうこ。はやの宮ぐこ時こうこ二物とるこうこんぬこ。この
あく。諭のやの一例くこうこるし
荒野　あくこやこれ乳のつくゆこの郭こ　宣五
員外　耳や蚤やこくこて花のかるこず　野水

続俵義　春の帽　すぐしこや花やあつふ声　乙州
同　声おくく猶浴やひまやの市の日　苔蘚
荒野員外　ひこうくこうく瓜やこ苣やとみすいも　旦蔞
炭俵　菊や苣こ　雀　鮒こ　利牛
右のごとく菊やちさたなどのみ下のやのあるいくふ
行ごんわなり

○第四例　来のやトこ

これこ。こはやこはやなどのみやのるし。こうこ。「かくこるこ」
こうこうこやこ「こぐこうこ」んここやこ物こやなどこうり。この
例のつく。わこうこうこうこるこうこ人こうこわこるこう
こうこれこ。こここぐこうこ郭く詞こうり。これこやの
本郭こうこどこわこここぐこ。これどこれく花こるこ例みず。

[illegible]文章のうつくしきを[illegible]

よ

[illegible]やよかなどつゆよりとあぎ[illegible]の跳の
屬く出やり所よりの月上の[illegible]の[illegible]友なり。五十音ニヨリテ例トスルトハ真反ナル
ヲシレル
べし
[illegible]やうに[illegible]
[illegible]人のなかなどよりあるひとく。俗語ニヨレシとうたうり。けりなどの
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

同　塀ごしに横ながれる竹の枝　雅七
同　ゆく年よ京へとなびく柳ひろう　湖春
同　渦蓋のけぶくしうく年の雲　孤屋
荒　折りけの大とる雲のうれしさ　樵丸
同　庵留の上るばつく沢あるれさく　樹水
同　うるどさよ物うるまるもなぶむし　雄人
軍　むしあうのいよ月は松ろろよ　路通
員　百姓もくるる所よくれのまは　同
続　すじしさよ牛の庵ちく川の中　万乎
猿　笑うよろ思ひなりひろ芋の葉　李由
同　書眠ぬまの鶯のまのうとうとく　芭蕉
同　うるはのこ別備ろ歩さく夢の花　涼人

続　百姓くなりうく世間ものぐろさよ　馬莫
これるぐ牛しくるぐよ物ちまもかなる者こうろ
誹のよれやるれど白ことをけのぐさくあぐみは世ろく
ろうるるぐやともぐ白ものいよ今ことこれを
無ずぐ牛けを白ものくゼクみこく衣あるぐさぐ
のものをを白ものかすと鶯ようつけうろの袋ちぶ
早くあるくの雪しぐ物ぐ沢を帰者ちの事とと
ろくうちくくたぐ一夜なるぐあくかりくあるぐ者ぐ
ましなるぬと棚柳くさを行ぐさずるとうぐろかの
者さものも出さぐりくろうとあることくされるる
ようくよくうんくく松機く者ぐあくあくあくしく
ようぐうつくくぐ部くうくる者の百ぐくく

さまあるとき。さうく。ちゝ千ぢぐ。はなすとさしたくはしたハ
ひりまと。これとあるつぐ。「さるぐ」やとつけく。常の人等
ぐたゝあるつぐるは歌まんかエ。織女ちくはるくれ者とをて
くはぐするる。常人の俗ぐるあゝあ子とちてくまけるこ。
きれぐよりとやくつくふくあくあ者ぐまうしそとちんむ
うの科間とかの者こまくの俗ぐしれわと。いがちつ不こかま
う俗やれとめ兵衛あるとまるぐ。位の字の正訓ちこづ方
まるりくしんくかくしくもこ

けちらつたる俗とつるたかのそうぐるとくた。
むりつぐりくく見ぬつけるぐ。我弟にくとくれち
がぐくしくもかくこれ

か

こ仮名。「がしする」「ぐるする」「ぐるする」「ぐる

[illegible]

[illegible]

[illegible]